

階

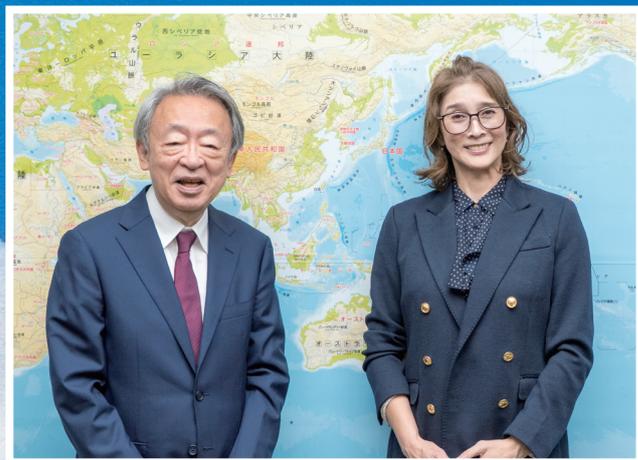
【きざはし】

～社会科教育を考える～

No.54

2026年1月

- 池上彰のインタビュー⑤④
主体性を育む「怒らない」指導とは 2
益子 直美 元バレーボール女子日本代表
- わたしの一里塚
受け継ぎ、循環する社会を目指して 8
石坂 典子 石坂産業株式会社 代表取締役
- ここに教育あり
世界の今を知り、教室で生かすこと
～若手教員への海外研修のすすめ～ 10
森 一広 東京都立国際高等学校 教諭
- 社会と教育の架け橋
未来のブカツのために
～部活動の地域展開の取り組みとこれから～ 12
宮守 陽介 NPO法人部活動リノベクエストLabo 副理事長
北野 和良
- 異国日本の地に立って
私の歩んできた道
～ソウルから日本へ、そして都市を紡ぐ未来へ～ 14
吳 成浩 公益財団法人 守屋留学生交流協会 第44回奨学生
- 子どもとともに
生徒に学校を「委ねる」ことで
未来を生きる力を育成する 裏表紙
岡山県玉野市立荘内中学校
- 資料
新町名番地入 最新大東京全図(昭和10年発行)
解説：今尾 恵介



池上彰のインタビュー
今回は 益子 直美 さん

子どもとともに (裏表紙掲載)

今回は岡山県玉野市立荘内中学校の取り組み



地元の常山つなやまを日本遺産にするためにさまざまな広報活動を行っている「地域活性化プロジェクト」の様子

生徒に学校を「委ねる」ことで未来を生きる力を育成する

岡山県玉野市立荘内中学校

全校生徒にどんな学校に通いたいか聞くと「楽しい学校」と答える。「学校を楽しくするのは誰?」と聞くと「自分たち」と答える。「じゃあ、学校をあげるから、楽しくしてね。」という思いを全校生徒に伝えながら、学校づくりを生徒に委ねている。「未来社会に必要な人材を育成する」を最上位目標とし、「主体性の育成」「社会の創り手としての当事者意識の醸成」を柱に学校改革を進めている。

● 教育活動を委ねることで主体性を育成

その具体的な取り組みとして、学校を生徒が創る小さな社会と位置付け、教育活動を生徒に委ねている。体育会等の学校行事や校外学習等の学年行事も生徒が組織する実行委員会が企画運営を行う。また、生徒会会員であれば誰でも改善点や企画を校長に直接具申できる制度を設けている。実施が決定された活動は、その都度募集される「学校生活向上プロジェクトチーム（学プロ）」が取り組んでいく。ルール改訂、野菜づくり、レクリエーション活動、ヤギ飼育、自習室設置等、生徒のアイデアに基づく多様な活動が日々実施され、昨今は地元の常山の歴史を紹介し、日本遺産登録を目指す「地域活性化プロジェクトチー

ム」も活動している。さらに、年間約60万円の生徒会費予算も生徒会に委ね、予算委員会で生徒同士の査定・審議を経て編成されている。こうした多角的なフレームの中で「学校は生徒が創るもの」という意識が高まり、主体性育成につながっている。

● ルールを委ねることで当事者意識を醸成

「自分たちでルールを考えたいから校則をください」という具申を受け、校則を生徒会に譲渡した。生徒会が自ら定める生徒会会員規則を「みんなのために守るべきルール」として運営している。また、ルールの見直しや全員の幸いにつながる課題の解決策を議論する「全校ルールメイキングサミット」を年3回程度開催し、当事者意識の醸成を進めている。

● 今後の荘内中学校

「みんなのウェルビーイングを考える」「みんなのために活動するのは楽しい」「自分が変わったのが分かる」といった生徒の声も聞く。生徒発信の活動は増えており、学校全体の盛り上がりを感じている。今後も教員がレールを敷かず、活動を委ねていくことで、未来社会で強く生きていく人材育成に取り組んでいきたい。



① 生徒が企画した地域振興ボランティアイベント「桜花祭」。学校行事ではないが2000人を超える来場者があり、地域の評価は高まっている。



② ルールについて全校生徒で考える「全校ルールメイキングサミット」。学年を越えてさまざまなテーマを話し合い、解決策を模索する。



③ 学プロの取り組みのひとつ「メイメイプロジェクト」。全校生徒の心の癒やしになるようチームがヤギの飼育を続けている。



④ 野菜づくりに取り組む「荘内Farmプロジェクト」。収穫した野菜は保護者や地域に販売し、生徒会の収益にして次の活動資金にしている。

